

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 光貞 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

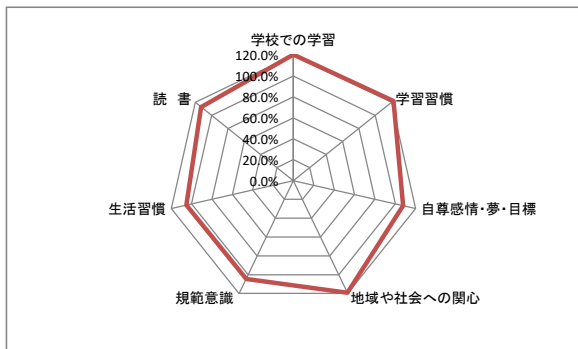
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答率	平均正答率	平均正答率	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を全体的に上回っている。選択式の問題よりも短答式・記述式の問題のほうが全国平均との差が大きく、書く活動を日常的に取り入れてきた成果がうかがえる。 ・「言語についての知識・理解・技能」の正答率は全国平均を大きく上回っているが、漢字の書き取り問題の一部で、正答率が全国平均を下回るものがあった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・ことわざの意味を理解して文中で活用する問題、文と文との意味のつながりを考えながら接続詞を使って文を書き直す問題では、正答率が全国平均を大きく上回った。	
	努力が必要な問題	・公衆電話について調べたことを報告する問題では、全国平均を上回っているとはいえ、全ての設問の中で最も正答率が低い。目的や意図に応じて自分の考えを明確にすることには、課題が見られる。	
算数	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を全体的に上回っている。「量と測定」領域では、他の領域と比べて正答率が低くなっているが、全国平均との正答率の差は他の領域よりも大きい。 ・言葉や式を用いて考えを記述する問題での無解答率が全国平均を大きく下回っており、問題解決に向けて粘り強く取り組む姿勢が定着してきている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・示された図形の求積方法を記述する問題、減法で成り立つ性質が除法でも成り立つかどうかを記述する問題において、正答率が全国平均を大きく上回った。	
	努力が必要な問題	・ある事象において「 $1800 \div 6$ 」が何を示しているのかを選択する問題では、正答率が半数を満たさず、全国平均とほぼ同等であった。除法の意味理解に課題が見られる。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・「自分には、よいところがあると思いますか」の肯定的回答が特に多く、全体的に自尊感情や自己肯定感をもつことができています。 ・「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」の肯定的回答が多い。英語教育リーディングスクールとして様々な取組を進めていることが、その一因として考えられる。 ・全国平均と比べて肯定的な回答が多いとはいえ、「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」で、「週1回以上」と回答した児童が半数に満たない。また、「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか」では、肯定的に回答した児童の割合が、全国平均と比べてわずかに低い。日々の授業における、ICTの積極的活用が課題である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・各担任が「『わかる授業』づくり5つのポイント」の、「4. 1単位時間の中に『話し合う活動』と『書く活動』」を特に意識するよう、「授業改善シート」を日常的に活用し、授業力の向上を図る。また、ICTの活用を通して、「わかる授業づくり」をさらに進められるようにする。 ・既習事項の定着度確認のため、朝自習の時間に学力定着サポートシステムの「基礎・基本定着問題」と「診断問題」を実施し、個々のつまづきを把握する。また、児童の実態に応じてその他学習プリントを活用し、基礎的な内容理解の深化を図る。 ・朝自習の「読書タイム」や「音読タイム」の充実、辞書を用いた意味調べの推進により、児童がたくさんの活字に触れられるようにしたり、語彙を増やしたりできるようにする。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

・「光貞小7つの花」(あんぜん・あいさつ・元気・せいせい・もくもくそうじ・なかよし・やさしさ)を日々の指導の中で意識付けていくこと、また、本校のきまり「光貞スタンダード」を共通理解していくことを、職員間で繰り返し確認し、児童の規範意識を高める指導に取り組む。 ・学級担任に加えて校長も学習ノートに励ましの言葉を書いたり、個人懇談会の時期に合わせて「自主学習ノート展示会」を実施したりして、児童だけでなく保護者に対しても自主学習についての関心を高められるようにし、家庭での学習時間増加を図る。 ・本校児童は、地域や社会への関心が全国平均と比べて高い。各教科等において地域施設や地域人材を活用したり、道徳科の授業において「北九州市郷土資料」を積極的に使用したりして、地域との関わりを児童が今後も大切にできるようにする。
